

愛川町立半原小学校

研究テーマ：「未来型授業(SDGs×STEAM×GIGA×PBL+インクルーシブ)」で
未来社会を切り拓く力を育む

1 実践の目的

子ども達が生きていく未来社会は、不安定・不確実で予測困難な「VUCA」の時代と言われている。

そこで、OECDが提唱する『ラーニング・コンパス2030』を参考に、これからの時代を生きていくために必要な「未来社会を切り拓く力」として、本校独自に下記「6Cの力」を設定した。



いずれも、英語に訳すと全て「C」で始まる6つの力である。これらを身につけることで、これからの時代を生き抜ける児童の育成が本実践の目的である。

2 実践の内容

今年度は、昨年度の研究を受けて、子ども達が自分達の住む半原という地区のよさを再発見すると共に、諸課題を解決しながら、あるべき半原の姿を考え、町内外にそのよさを発信していく学習を継続して進めた。

その際、「SDGs」の17の目標を学習課題に絡め、「STEAM」教育が成立するように、教科横断的にカリキュラムマ

ネジメントを行った。また、どの時期に何を行うのか、児童にも他学年の教員にも可視化して説明できるよう、「未来型授業カレンダー」を全学年で作成した。

未来型授業カレンダー 5年「半原プロジェクト～未来の半原は私たちが守る!～」												250時間	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語		国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	国語の授業 国語の授業 国語の授業	
算数M		算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	算数の授業 算数の授業 算数の授業	
理科ST		理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	理科の授業 理科の授業 理科の授業	
社会T		社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	社会の授業 社会の授業 社会の授業	
総合TE		総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	総合の授業 総合の授業 総合の授業	
特活		特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	特活の授業 特活の授業 特活の授業	
道徳		道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	道徳の授業 道徳の授業 道徳の授業	
図工A		図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	図工の授業 図工の授業 図工の授業	
音楽A		音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	音楽の授業 音楽の授業 音楽の授業	
学行		学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	学行の授業 学行の授業 学行の授業	

そして、学習を進めるにあたっては「GIGA」スクール構想で整備されたICT環境を積極的に活用し、「PBL」の探求的プロセスを有効に活用して進めていった。

さらに、今年度は今まで本校で実践してきた「インクルーシブ」の視点を加えて、「交流」をキーワードにして研究を進めた。

本校では、この「SDGs」「STEAM」「GIGA」「PBL」「インクルーシブ」の相乗効果を図る授業スタイルを「未来型授業」と名付け、それを進めるにあたっては、東京学芸大学の太村龍太郎准教授などにご助言いただきながら研修会を実施した。



各学年の授業実践内容は次のとおり。

■1年生：『春夏秋冬を楽しむ』

「アソビを通して、春夏秋冬を満喫する」をコンセプトに「ものづくり」を多く取り入れ、学習したことや感謝の気持ちを形にしてきた。

3学期には新1年生を含む幼稚園・保育園の園児を招き、

「半原小でいっしょにあそぼうの会」として、今まで学習したことを思い出しながら、優しい言葉かけをして交流できた。



■2年生：『野菜ワクワク大作戦』

野菜嫌いな児童も多い学年だったが、1年間を通して野菜を育て、育てた野菜を食べたり、コキアの栽培・加工をしてホウキ



作りをしたりと体験を通して学びを深めてきた。近所の農園で大根の収穫や蜂蜜の蜜を絞る様子を見たり、野菜の育て方を教えてもらったりした。

■3年生：『もっと知りたい 伝えたい 半原調査隊』

身近にある自然について調べ、動画などにまとめた。まず、1学期には、校庭の周りにいる生き物を探し調べた。さらに、昆虫博士から話を聞き、虫マップにまとめた。2学期には、学校の周り（ふれあいの村、ホタルの里など）にはどんな生き物がいるか探し、グループごとに調べ、動画などにまとめた。そして、3学期には、発表の仕方を考え、発信した。

■4年生：『輝け☆愛川エネサイクル！』

愛川町内のエネルギー・発電やリサイクルの流れを調べ、グループで動画を作成した。1学期は、ペットボトルリサイクルについて外部講師から学んだ。2学期は、水とエネルギー館、宮ヶ瀬ダム、服部牧場などを見学

し、身近なエネルギーや環境への取組について学んだ。

■5年生：『半原プロジェクト～未来の半原は僕たちがまもる！～』

自分たちが住む「半原」という町の魅力を知り、未来に残したいもの、未来につなげたいことを考える活動等を通して、この町を大切にしたいという気持ちを育んできた。「過去」「現在」の半原について複数の外部講師から学び、「未来」の半原を考え、考えたことを具体的な行動に繋げることができた。

■6年生：『みんなで恩返し 半原小に6年間の感謝を伝えよう』

6年間のすべてに感謝して、その感謝の気持ちを伝える活動を通して、高学年としての自信をつけさせたいと考えた。

子どもたちのアイデアを生かしつつ、子どもたちの得意な分野をどう引き出しながら活動をしていくか考えた。また、ペア学年や下級生と交流する中で、感謝される経験、人に必要とされる経験、自己有用感を感じられるような実践を進めてきた。

3 実践の成果

研究の授業実践を通して、子ども達はそれぞれの学年テーマに向かって、主体的・対話的・協働的な学びを深めたと考える。

特に今年度は「未来型授業カレンダー」を意識して年間を通じて「6Cの力」を意識して力を伸ばすことができた。

4 今後の展開

次年度は、今年度の研究をベースに「未来型授業」を通して「6Cの力」をいかに育んでいくか、さらに研究を進めていきたい。その中で、今年度課題となった子どもが学習を自分事ととらえ、学習を進めていけるか、どうサポートするか研究を進めていきたい。